

**(仮称) 次世代型スポーツ施設整備等事業
実施方針等に関する本事業への参加希望者との個別対話
結果概要**

令和6年6月28日

さいたま市スポーツ文化局スポーツ部スポーツ政策室

1 個別対話スケジュール

令和6年4月17日(水)～4月26日(金)

2 参加事業者

19者

3 個別対話結果概要

(1) 運営について

- 黒字化については、いくつかの事業者からは可能との意見があった一方、大半の事業者は、市の財政負担の具体的な考えと金額が示されてからの判断との意見であった。
- いくつかの事業者から、昨今の物価、人件費、エネルギー費などの高騰を鑑みた予算化を求める意見があった。
- プロフィットシェアリングについては、市の考えに対し、ほとんどの事業者が妥当との意見であった。

【主なその他意見】

- ・ 収支が成り立つスポーツイベントとしてバスケットボールやバレーボールなどがあげられるが、長期的な視野に立てばスポーツ興行のフランチャイズとして稼働することは可能ではないか。
- ・ もう少し大きな施設規模が好ましいが、5,000席規模でも需要はあり、今後さらに創出される可能性も期待される。
- ・ 今後Bリーグ新ライセンス等の影響で中規模のアリーナが増えることで、中規模のアリーナツアーがパッケージ化され本施設における需要が増える可能性も考えられる。
- ・ MICEの利用可能性も考えられる。
- ・ eスポーツ大会の5,000人規模の施設需要は高いと考える。
- ・ アマチュアスポーツ大会の利用は、さいたま市の行政サービスの向上に際し必須と考える。
- ・ サブアリーナも、現在の与野体育館とは設備等の条件が異なるため、維持管理や運営費は高騰する。

(2) ハードについて

- 施設の高さ制限については、いずれも対応可能との意見であった一方、厳しい印象ではあり、コスト縮小にもつながるので緩和を求める意見もあった。
- 建設位置については、現時点でのイメージを示す事業者もあったが、いずれもまだ具体的な想定はないとのことであった。施設配置の自由度が高い方がメリット・デメリットを比較しやすい、提案の公平性を担保するため配置計画に関する前提情報があれば一律の提示が必要等の意見があった。
- いくつかの事業者から、建設工事費の高騰が深刻な状況にあるとの意見があった。

【主なその他意見】

- ・ 事業規模が大きくなることでコスト調整の幅が広がるため、公園との一体整備が好ましい。

(3) 与野中央公園について

- 公園全体での一体管理について、望ましいとの意見があった一方、事業範囲が広すぎるためそれぞれに特化した事業者が運営した方が利用者サービスは向上すると考える、公園管理の条件によっては本施設の管理・運営計画における足かせになる可能性もあるとの意見があった。

【主なその他意見】

- ・ 本施設は公園施設であるため、提案に際し、施設コンセプトが与野中央公園のコンセプトと齟齬が生じないように、与野中央公園の整備計画の情報共有が必要である。
- ・ 公園の来場者が本施設を認知し、後日本施設でのイベントに来場することや、本施設来場者が公園を楽しむなど相互の連携が必要と考える。

(4) 周辺環境について

- いくつかの事業者から、騒音などへの対策が必要であるとの意見があった。

【主なその他意見】

- ・ 歩行者動線沿いに商店を拡充させたり、チームの色に装飾したり、地元と協力して一体感を創出することが重要と考える。
- ・ 交通誘導員の配置により来場者に与野駅も含めた一定のルートを通らせることで与野本町駅への帰宅集中を避ける等、周辺住民への配慮等が必要である。
- ・ 幹線道路からの出入りについて一方通行で引きを長くして渋滞を防ぐ必要がある。
- ・ 周辺住民への配慮として、渋滞や興行時の音、光、振動などの対策が必要である。
- ・ 本施設に至る各駅からの来場者動線計画と、公園整備計画は密接にかかわる事業と考えるため、定期的に市と事業者との意見交換の場を設けていただきたい。

以上